

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ
特別委員会県外調査報告書

平成30年11月7日(水)から9日(金)まで、「ラグビーワールドカップ2019について」、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について」、「アスリートの育成について」及び「文化プログラムの推進について」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 桐生秀昭 殿

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ
特別委員会 委員長 原 聡 祐

東京オリンピック・パラリンピック・
ラグビーワールドカップ特別委員会
県外調査報告書

平成30年11月7日（水）～9日（金）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 延岡市民体育館、KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園(宮崎県)、シーガイアスクエア1(フェニックスリゾート(株))、熊本県民総合運動公園陸上競技場
- (2) 出席委員 原委員長、神倉副委員長、川本、山口(貴)、国松、いそもと、松田、中村(武)、作山、渡辺(ひ)、近藤、楠の各委員
- (3) 調査日 平成30年11月7日(水)から9日(金)まで

2 延岡市民体育館

(1) 調査目的

延岡市民体育館は、平成25年度に全日本男子柔道の合宿が行われるなど、大規模な柔道合宿の受入が可能な施設であり、東京オリンピックでのドイツ柔道代表も合宿を予定している。また、延岡市はドイツのホストタウンの一つに選ばれ、少年柔道のドイツ代表チームが市内でキャンプを行うほか、ドイツ&スポーツフェスタが開催され、市民がドイツ文化に接する機会を設けることにより、市民を巻き込みドイツチームを歓迎する機運を高め、ドイツとの交流を進めている。

本県でも、東京オリンピックでのセーリング競技等の国際大会開催に向けて、スポーツの普及啓発や、大会の成功に向けた機運醸成を図っているところであり、同施設と延岡市の取組を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組みについて

(ア) 平成27年度

- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ドイツ連邦共和国を相手国とするホストタウンに登録した。

(イ) 平成28年度

- ・教育委員会に「東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進室」を設置し、ドイツ人の国際交流職員を採用した。
- ・ドイツサッカーチームのコーチ2名が訪れ、サッカー教室や文化交流を実施した。

(ウ) 平成29年度

- ・ドイツ柔道連盟会長、副会長の2名を招き、延岡市での柔道合宿誘致を視野に、柔道関連施設の視察等を実施した。
- ・日独スポーツ少年団交流事業により、ドイツスポーツユース9名を受け入れ、ホームステイを体験したほか、スポーツや文化交流事業等を実施した。

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた形成活動「Toward & Beyond 2020」として、オリンピック・パラリンピック等経済会協議会のメンバーであるトヨタ自動車の公式野球部による野球教室を開催し、約120名の子供たちが参加した。
- ・ドイツ大使館主催のホストタウンミーティングに参加した
- ・ドイツ柔道連盟による柔道グランドスラム東京2017事前合宿を実施した。
- ・宮崎地方法務局主催の「人権教室」による、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の支援により、パラリンピック正式競技の「ボッチャ」体験を組み合わせたイベントを実施した。また、小学校の土曜授業を活用し、市内障がい者団体も参加して実施した。

(エ) 平成30年度

- ・ホストタウン交流イベントを開催した。
- ・ドイツ柔道連盟U18強化合宿を実施し、男女選手、コーチ、理学療法士の計53名が訪れた。練習には地元の高校生が協力し、参加した生徒からは、ふだん外国人の選手と稽古する機会がないので、大変有意義であったという意見があった。

イ 文化プログラムの推進について

6月30日、7月1日の2日間、イオン延岡ショッピングセンターにおいて、東京オリンピック・パラリンピック開催の機運醸成を主旨とし、スポーツの素晴らしさ、楽しさを伝えるコンテンツを軸に、延岡市のホストタウン相手国であるドイツとの国際交流を通じた認知向上、さらにパラスポーツに対する認知・理解を深めることによる共生社会の実現を目指し、ドイツ&スポーツフェスタ2018 in Noboekaを開催し、様々な催しを実施した。当日は荒天のため、一部の企画は中止になったが、大型商業施設での実施で、お客様が楽しみながら認知拡大につながる効果があった。地元マスメディアへの露出も多く、来場者以外にも幅広く認知された。

ウ 延岡市民体育館の概要について

昭和54年10月10日に開設され、総工費は約12億円である。収容人数はアリーナが784席ある。また、350台分の駐車場を備えている。平成29年度における使用状況であるが、使用件数は13,246件、使用人数は96,102人であった。

(3) 主な質疑応答

- 質 疑** ドイツとはホストタウンの登録や様々な交流事業を行っており、姉妹都市以上の取り組み、交流を行っていると感じる。今後の展開はどのように考えているか。姉妹都市を考えているのか。
- 応 答** 今のところ姉妹都市までは考えていないが、ドイツとの強いつながりを持っており、オリンピック後も交流は続けていきたいと考えてい

る。

質 疑 文化の施策はいつからスタートしていつまでやる予定か。また、評価は難しいと思うが、何をもって成功したと考えるか。

応 答 昨年から始めている。いつまで実施するかは決まっていないが、レガシーとしてオリパラ後もソフト事業は続けていきたい。成果については評価が難しい。こうした取組みをしっかりと発信していくことが大事だと思っている。

質 疑 なぜドイツなのか。

応 答 2002年のサッカーワールドカップの時にドイツ代表が宮崎市でキャンプを行った経緯があり、その関係で宮崎県とドイツが非常に密接な関係にあった。元々つながりが強かったことから、県が最初にホストタウンの手を挙げた。その中で、延岡市、宮崎市、小林市がそれぞれの種目に手を挙げた。

質 疑 延岡市内の中学校における柔道部の状況はどうか。また、柔道の基礎底辺はどの程度まであるのか。

応 答 市内の中学校で柔道部があるのは4、5校程度しかないので、スポーツ少年団等に入っている子もいる。子どもの数が減っているのも、どのスポーツにおいても底辺の拡大が課題であるが、本市には旭化成という強いチームがあるので、拡大を図るために何をすべきか模索中である。

質 疑 学校の指導者と親が連携して、子ども達に柔道の魅力を教えてもらいたい。延岡市を柔道の町にするために頑張ってください。

応 答 中学校の部活の話だが、今のところ専門の顧問がいないのも大きな問題なので、教育委員会と連携して拡大を図りたい。

質 疑 市民体育館の稼働率が高い中で、全柔連の合宿だとかが専用を使うことで、市民から何か言われぬか。

応 答 年間調整会議を行い、その時に大きな大会や合宿について周知しているのも、特に苦情はない。

質 疑 全柔連の合宿時の宿泊施設はどうしているのか。

応 答 近隣にホテル、旅館がある。

質 疑 観光事業にも最近力を入れ始めてきたという話もあったのだが、合宿期間中に観光客が延岡市に来られなくなるということはないか。

応 答 今のところそのような話は私たちのところにはきていない。合宿に関しては旭化成柔道部がメインで来られるので、ホテル関係についても全部屋ではなく、例えば3分の2とか使用して一部は空けておくという形をとっていると聞いている。

(*) 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。



(4) 調査結果

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるドイツ柔道チームの事前合宿地になっている延岡市民体育館は、ドイツとの交流を深めるため、様々な取組を行っている。また、地元商業施設で、文化交流イベントを開催し、市民にドイツ文化との接触の機会を設けるなどの機運醸成にも積極的に取り組んでいた。

以上のように、延岡市民体育館の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

3 KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園（宮崎県）

(1) 調査目的

KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園は宮崎県が所有し、公園部分は宮崎県公園協会が、スポーツ施設など有料施設は宮崎県スポーツ施設協会がそれぞれ指定管理者として運営管理を行っており、公園内のハイビスカス陸上競技場は、日本陸連第1種公認陸上競技場として、名実ともに宮崎の中心的なスポーツ施設となっている。

また宮崎県は、スポーツランドみやざきの施策を推進しており、アスリートフードの取組などアスリートのおもてなしやスポーツコンテンツを観光の新たな付加価値と位置付け、誘客の取り込みを進めるとともに、合宿・キャンプの誘致にも積極的に取り組んでいる。その中で、KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園は、一か所にまとまった競技施設に加え、空港、宿泊施設が近く、合宿・キャンプが多く実施され、スポーツランドみやざきの施策の中心的な施設である。同施設は羽田便の多さなどが評価され、ドイツ陸連が事前キャンプを行う予定である。

本県においても、県内各地への事前キャンプ誘致を積極的に進めており、同施設と宮崎県の取組を調査することで、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目（KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園）

宮崎県総合運動公園は置県80周年記念事業として、昭和46年に開設された自然環境を活かした緑の中のスポーツ公園である。敷地は、松林を含めて総面積154ヘクタールで、南北約2キロメートル、東西300から900メートルに及び、園内には約500種、42万本の木が植栽されている。陸上競技場、水泳場、ラグビー場、サッカー場、自転車競技場、野球場、屋内運動場、武道館、テニスコート、屋内練習場などがある。日本庭園、バラ園、児童公園など様々な公園もある。松林の中にはクロスカントリーコースもあり、多種多様な施設が集積して配置されている。各施設では様々な大会が開催されており、県民総合スポーツ祭、高校総体等の開催をはじめ広く県民に親しまれており、県の推進する「スポーツランドみやざき」の中心的施設として、プロ野球の巨人軍やJリーグの鹿島アントラーズのようなプロスポーツ団体のキャンプや公式戦に活用されている。東京2020オリンピック・パラリンピックではドイツ陸上チームに事前キャンプ地として選定されている。

昭和46年に運動広場、軟式球場が設置された後、昭和54年開催の国体を経て、昭和56年のゲートボール場の完成まで約72億円の事業費で完成した。

プロのみならずアマチュアも含め、多くのスポーツキャンプを受け入れている。平成29年度の利用者数は、約140万人で、大規模大会の有無や災害の影響もあるが、全体として、利用者は伸びていて地域観光の活性化、県民が身近にトップア

スリートを見る機会の提供につながっている。

(3) 主な質疑応答（KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園）

質 疑 川崎市では、川崎フロンターレの試合の時に非常に周辺が混雑するが、こちらの状況はどうか。

応 答 プロ野球のオリックス、日本ハムの公式戦や、野球のU18アジア大会の時は大変混雑した。宮崎県は公共交通機関があまりないので、駐車場の出入りに時間を要する。

質 疑 総工費はどのくらいか。

応 答 ほとんどの施設が昭和56年に建設されているが、その時にかかった金額が72億円。その後、武道館の建設に約82億円、サンマリスタジアムの建設に80億円、木の花ドームの建設に34億円かかっている。

質 疑 キャンプ利用等による収入はどのくらいか。

応 答 利用料は非常にリーズナブルである。例えば陸上競技場を使っても1人当たり1時間で120円。団体利用でも1団体1時間で2,500円、武道館は1人80円、サンマリスタジアムは1時間当たり2,500円、合宿所は1泊3食で3,000円を切る価格で提供している。

質 疑 巨人軍のキャンプでもその金額か。

応 答 巨人軍のキャンプの場合は野球場だけでなく、屋内練習場や第2陸上競技場、木の花ドーム等も使っている。プロの場合は通常の10倍の金額を払っていただくのだが、宮崎県推進のため減免措置をしており、春季キャンプで総額800万円程度、秋季キャンプで300万円弱となっている。

質 疑 指定管理料はどのくらいで、それに対する収入はどのくらいか。

応 答 この有料公園施設の他に、県の体育館やライフル射撃場の指定管理も受けており、トータルで年間4億円程度である。それに対する収入は1億2千万円程度である。なお、県が主催する事業は基本的に減免であるが、その減免額は1億4千万円程度になる。収入が1億2千万円くらいなので、減免の方が多いという形になる。先般、10月いっぱい行われていた教育リーグ、フェニックスリーグという野球のリーグがあるが、それなどは1カ月使ってすべて無料である。

質 疑 経済波及効果を試算していれば教えていただきたい。また、スケボーやボルダリングなどの新しい競技に対する整備はしているか。

応 答 経済波及効果は指定管理者の我々では分からないので県に聞いていただきたい。新しい競技については、県立体育館でボルダリングの普及活動をしており、今後はeスポーツにも取り組む必要があるかなどと考えている。

- 質 疑 パラスポーツに対するバリアフリー対策はどのように対応しているか。
- 応 答 障害者スポーツ大会が様々行われており、陸上競技場等の古い施設は改修をしている。
- 質 疑 年間140万人くらい利用者がいるようだが、観客を含めた来場者はどのくらいか。また、サーフィンのメッカということだが、今回の大会でサーフィンが正式種目となっているが、この場所はビーチもすぐ近くにあるし、そういうマリッジジャーだとかサーフスポットも色々と維持管理していかなければスポットになり得ないので、そういうことも考えられているのか確認させていただきたい。
- 応 答 140万人の中に観客も含まれている。有料施設以外の利用は含んでいないが、そういったものを含めると200万人に達するのではないかと思う。今後については、近くにサーフスポットがあり、そこは宮崎市の管轄になるのだが、トイレ、シャワー施設や駐車場等の整備をされている。特にトライアスロンにおいては、海、浜辺を利用しての大会や練習、それから自転車競技場があるし、松林の中にはクロスカンントリーコースもあるので、そういうのを一体的に利用できるということで、利用いただいているところである。今後ますます整備されていくのではないかと考えている。
- 質 疑 どうしても議会の間人だと費用対効果のようなことを問われると思う。当然それだけでは語れないということは分かっているのだが、今後、利用者や来場者数の増加に向けた取組はあるのか。
- 応 答 県全体としては、「スポーツランドみやぎ」という政策を推進しており、そのために積極的な合宿の誘致を行っている。宿泊して合宿すれば県の補助が一人当たり例えば500円とか付くという話を聞いている。私どもも積極的にこの武道館やサンマリンスタージアムを使ったりしながら、各種の自主事業として剣道の九州大会とか柔道の全国大会などを長年やらせていただいている事業に取り組ませていただいている。
- 質 疑 合宿所の利用人数が伸びているようだが、リピーターと新規の割合はどのくらいか。
- 応 答 統計はない。昨年1年を見ると100チーム以上の合宿を受け入れており、近年トップチームが増えている。Jリーグが4チームから6チームに増えた。また、実業団のトップレベルの選手が個人で来ることもある。
- 質 疑 武道館の利用が10万人以上増えているが何か策があるのか。

応 答 様々なイベント、大会を開催しており、東日本大震災でいったん減少したがまた増えてきた。Vリーグ（バレーボール）の試合や、武道館内のトレーニングルームの利用が順調に推移している。

質 疑 ネーミングライツについて、どのような企業で年数、金額はどのくらいか。

応 答 焼酎で有名な霧島酒造で5年間で2億円となっている。

質 疑 ゲートボールの利用者の減少理由はなにか。

応 答 グラウンドゴルフに移った方が多いためと考えられる。

（*）上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。

(4) 主な説明項目（宮崎県）

ア スポーツランドみやざきについて

スポーツランドみやざきの取組は、かつて新婚旅行のメッカであった宮崎県が、何か柱になるような取組として、民間から出てきた取組である。各種スポーツの観客は、観戦のみで観光をしない人が多い。そこで、観光資源の魅力の一つである食などを活用し、県内を周遊する機会の提供や仕組みの構築、スポーツコンテンツを活用した着地型観光を充実させるなど、誘客拡大を図っている。

宮崎県は温暖な気候と整備されたスポーツ施設があることから、多くのスポーツキャンプ、合宿、イベント等の誘致に積極的に取り組んでおり、その中でも、KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園は充実した施設を有し、プロスポーツ団体等のキャンプも行われることから宮崎県のスポーツ施設の拠点ともなっており、スポーツランドみやざきの中心的施設に位置付けられている。

スポーツキャンプの実績であるが、平成5年から統計を取り始め、右肩上がりである。平成30年春季キャンプの経済効果は、観客者数が約76万人、経済効果が129億9,700万円、PR効果は57億円と試算している。プロ野球7球団、Jリーグ17チームが宮崎県でキャンプをしている。

オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致状況であるが、ドイツ陸上連盟、カナダのトライアスロン、パラトライアスロンについては、事前合宿が決まっている。また、ドイツ柔道、イギリスのトライアスロン、パラトライアスロンは合宿を行っている。

イ みやざき東京オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクトについて

平成26年に官民48団体が推進会議を設置し、取り組んでいる。これは2020年以降を見据えた、次世代に受け継ぐ有形無形の財産づくりと、大会に向けた取組を一過性のものにしないことを理念としている。プログラムの三つの

柱として①宮崎の強みを生かした東京大会への貢献、②宮崎の魅力向上、③スポーツランド推進がある。具体的な取組として、食材の活用を目的とした「ひなたGAP」認証制度を創設、ホストタウン交流事業の実施、キャンプ、事前合宿の誘致などスポーツランドみやぎきの推進にも貢献している。

(5) 主な質疑応答(宮崎県)

質 疑 インバウンドにも取り組んでいるという説明もいただいた。観光で来県される方が多いと思うが、これらの施策で公共交通機関の整備も進めていくのか。また、課題だと感じていることはあるか。

応 答 特にこの施策で公共交通機関の整備は行わない。なお、5～6月は雨の時期なので観光客が落ち込む。これをどうしていくかが課題である。

質 疑 午前中に総合運動公園を視察して指定管理料等を聞いたが、利用料金が相当安い。駐車場の混雑という話もあったので、今後整備をしていくのに計画と投資が必要になるかと思うがいかがか。今日午前中に総合運動公園の説明で、だいたい管理費で4億円、入場料で1億円、それでだいたい140万人が集まって使っているという説明があった。単純に割っただけなのだが、入場料1人当たり71.4円になる。時間単位ではないので、2時間、3時間使う人もいることを考えると、相当安いと思う。こういったところも適正な入場料を取って、それを新しく投資に使うというやり方もあるのかと思ったのだが、いかがか。

応 答 得られる経済効果というのは、総合運動公園だけで測られるものではなく、あるものを活用しながら地域に経済効果がいきわたるような取組として、スポーツランドみやぎきの取組を考えている。

質 疑 スポーツランド推進室の年間予算はどれくらいか

応 答 今はオリパラ、ラグビーワールドカップの前なので一概にこれという風には言えないが、実はサンマリスタジアムの横にブルペンを今年度造る予定にしている。今ちょうど工事にかかりだしたところなのだが、それが1億6千5百万円。それで今年度の予算が3億3百万円くらいなので、だいたい1億4～5千万円くらいだと思っている。ただ、これはラグビーワールドカップの前なので、そういったところも少し膨らんでいる部分はある。

質 疑 新しい競技についてどのように考えているか。また、総合運動公園にはレストランがなかったが、ボールパークのような発想はないのか。食を目当てに来る方もいると思う。

応 答 総合運動公園の隣に海があり、そこが有名なサーフスポットとな

っている。新たに総合運動公園内にスケボーなどの施設を造ってほしいという声はあるが、今のところ造る考えはない。

ボールパークのような施設にしたい考えはあるが、予算の問題もありそこまでの計画とはなっていない。

質 疑 最近、宮崎に観光というイメージが少ないように感じるが、今後、スポーツと観光をどのようにコラボしていこうと考えているか。

応 答 プロ野球等のキャンプの見学には来てくれるが、観光地を回ってくれない。観光消費額を上げるための仕掛けを今後考えていかなければいけないが、自ら楽しむスポーツというのは宮崎の強みだと思っているので、ゴルフ、サーフィン、サイクリング等を活用できればと思っている。

質 疑 受け身だけでは誘致はできない。いろいろなチームを呼ぶにあたって、インセンティブ等どのような取組を考えているか。また、計画やこの先のビジョン、目標数値があれば教えていただきたい。

応 答 アマチュアスポーツの大学のサークルが合宿に来る際、宿泊費の助成を市町が行っている。県も初めてくる団体には最初だけ宿泊補助を行っている。代表クラスの団体に対しては、長年貢献していただいているので、宮崎牛の贈呈などを行い、入ってきたときに歓迎セレモニーをして盛り上げて、マスコミに来ていただいて非常に注目を集めるような仕掛けを行ったりするが、現物でのインセンティブはない。

質 疑 ナショナルチームへのアプローチはしているか。

応 答 人も変わってくるので節目節目でちゃんと挨拶に行って宮崎のキャンプ環境をPRしたりとか、そういったことは常々やっているし、プロチームに関してもマネージャーさんとか人間関係が出来ているのでそれが途切れないようにやっている。海外チームは色々キーになる人がいるので、そういった人たちを通じて関係をつなぐように取り組んでいる。

質 疑 ホストタウンについて、県が関わっているところと関わっていないところがあるが、その違いは何か。食に関してだが、GAPについてどのような認定がされれば選手村で提供ができるのか。

応 答 キャンプの誘致やホストタウン登録は県と市が一緒になって行ってきたが、モンゴルに関しては都城市が20年以上前から交流をされている。モンゴルとはそのような交流がある関係でホストタウンになった。ただキャンプ誘致は難しい。レスリングで誘致したいということで動き出したそうだが、元々レスリングのキャンプ地は決ま

っていたようで事前キャンプは無理なのだが、向こうのオリンピックに少し早めに来ていただいて地元の子どもに教室をやっていたりとか、そういうような取組を図っていくと聞いている。

日向市は以前からハワイとサーフィンを通じた交流とか、そういうことをやっていたりしており、できればサーフィンの事前キャンプを彼らもやりたいのだが、たぶんアメリカのサーフィンの選手でオリンピックになるような人はプロの有名な人である。それこそ世界中を転戦しているような一握りの人が代表選手になるので、そういうことを考えると事前キャンプをやるかどうかはよく分からないという状況なので、キャンプ誘致は難しいということがあって、日向市は単独で自分たちだけでやりますということだった。

GAPについての基準は組織委員会が決められている。組織委員会が決めるものとして、例えば国際水準のグローバルGAPがあるが、GAPは農作物の生産行程がきちんと管理されているかにより認定される。こういったものが組織委員会の言う、提供できる素材の基準を満たすものになる。宮崎県でもひなたGAPをつくっている。認証を受けるには費用と手間がかかる。県内の生産者が基準を達成できるように指導員、人材を育成し、ひなたGAPをつくり、基準に達すれば、提供は可能になる。

質 疑 課題の中に宿泊地の問題があったが、民泊という発想はないか。
応 答 今のところない。



(6) 調査結果

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるドイツ陸上チームの事前合宿地になっているKIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園は、様々な

プロスポーツキャンプが行われるなど、広大な敷地に様々な競技施設をコンパクトに整備し、県民がスポーツに接する機会も提供しており、宮崎県の「スポーツランドみやざき」の施策の中心に位置付けられる施設である。

また、宮崎県は全国的に見ても恵まれた気候や、整備されたスポーツ施設を活かし、スポーツ合宿などを誘致する「スポーツランドみやざき」の施策に積極的に取り組んでいる。豊富な受け入れ体制をいかしたおもてなしの体制も整備されている。

以上のように、スポーツランドみやざきの施策の中心に位置付けられるKIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

4 シーガイアスクエア1(フェニックスリゾート(株))

(1) 調査目的

シーガイアスクエア1(フェニックスリゾート(株))は、1万人規模のイベントからスポーツキャンプまで、多彩に利用できる多目的広場であり、サッカーやラグビーなど国内外の数多くのスポーツチームが合宿を行っている。また、2015ラグビーワールドカップでは、日本代表が合宿を行っており、国際代表を受け入れた実績もある。

国際代表クラスの合宿や事前キャンプには、その前提要件として高度な内容を要求されるが、同社はその要件を満たし、ノウハウも蓄積している。

本県においても、ラグビーワールドカップ2019に向けて、国際代表チームが各地で事前キャンプを予定していることから、同施設の受け入れ体制等を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する

(2) 主な説明項目

ホテル、コンベンションホールを中心に南北11キロメートルのなかに、ゴルフ場、テニスアカデミー、ゴルフアカデミー、天然芝のグラウンドであるスクエア1がある。

スクエア1は96m×145mであり、ワールドカップ組織委員会の指定グラウンドとしての規定をすべて満たすものである。芝生はオーバーシードで冬も天然芝で一年中緑の芝で利用できるというのが一番の特徴である。フェニックスカントリークラブを整備しているノウハウを流用してグラウンドの整備を行っている。ワールドカップ組織委員会がグラウンドの調査を行ったが、その項目をすべてクリアしている。

フィジカル、食事面のサポートも行う。ホテルもあり、コンベンションで会議も行いながら、すぐ横にグラウンドもあり、移動がないので、ワンストップで合宿ができる。フィットネスマシン、プール、リカバリーをするためのケア、酸素システムもあるので、選手のケアにも対応できる。

(*)視察中に、質疑が随時行われた。



(4) 調査結果

シーガイアスクエア1は、ラグビーワールドカップ2019における日本代表チームの事前合宿地になっており、練習施設、ケア施設などが集積しており、アスリートの利用に対応した良い練習環境づくりに取り組んでいる。

以上のように、シーガイアスクエア1における、スポーツ合宿の受け入れに向けた取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

6 熊本県民総合運動公園陸上競技場

(1) 調査目的

熊本県民総合運動公園陸上競技場は、ラグビーワールドカップ2019の会場にもなっている。

熊本県は国際スポーツ大会開催の成果を次世代に残して、復興につなげるため、「くまもとハロープログラム」として①震災からの復興の姿の発信、②スポーツの普及と振興、③インバウンド観光の推進、④国際交流の促進の四つの方向性により、各種事業に県民や企業、各種団体の参加を促し、取り組んでいる。

本県においても、日産スタジアムがラグビー会場になっているほか、ラグビーワールドカップ2019に向けて、市町村と連携し、県内キャラバンイベントや普及啓発イベントを実施していることから、同施設や熊本県の取組を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

熊本県民総合運動公園陸上競技場では、ラグビーワールドカップが2試合、2019年10月6日にフランス対トンガ、10月13日にウェールズ対ウルグアイが行われる。熊本で試合を行うフランス、トンガ、ウェールズ、ウルグアイの4チームが、熊本県で公認キャンプを行うことが決定している。ラグビーワールドカップ2019組織委員会と熊本県・熊本市で、ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地契約を締結した。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催にあたり、熊本県・熊本市にゆかりを有し、高い知名度のある方々を選任し、大会開催まで各種メディアへの出演による大会の告知、イベントへの参加等、さらなる機運醸成に努めている。熊本県・熊本市共同で計画を作成し、国に了承を受け、フランス人観光客の誘客促進のための交流セミナーを実施し、ウェールズとの地域交流計画についても国の承認を受け、交流事業を実施する予定である。

スタジアムの座席の一部を交換する必要性が生じ、組織委員会から熊本で不要になる椅子を釜石市に提供できないかという提案があったので、譲渡を行った。

県民スポーツの日にタグラグビー大会の開催や県内小学校でタグラグビー教室を開催するなど競技普及を行っている。

ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた取組として、①ラグビーワールドカップ2試合すべての円滑な実施運営を成功させる。②ラグビー6万人の観光客動員目標を達成する。③大会から得られる成果を「レガシー(遺産)」として活用し地域・国際・文化交流等の拡大を図る、という三つを目指す成果に挙げている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 大会中の宿泊施設はどうするのか。

応 答 選手はしっかりしたホテルに宿泊してもらおう。観戦客の2割は海

外からのお客を想定している。市内だけでは宿泊施設が足りないの
で、旅行会社と連携していく必要がある。

質 疑 施設の収支が気になるが、現状どうか。

応 答 私どもは指定管理者として業務している。陸上競技場と合わせて
県民運動公園ということで、全体で100ヘクタール近くある。その中
にテニスコートやサッカー場、ラグビー場、フットサル用の人工芝、
色々な施設がある。東京ドームの20倍くらいの広さがある施設を管
理運営している。県から指定管理料はここだけでは年間約4億円で
指定管理を受けている。それで私どもの方で有料使用を中心に施設
を運営しており、だいたい昨年度で利用者が94万人いた。使用料が
1億5千6百万円くらいとなっている。それ以外に広告とか物販と
いうものを含めて運営しているところである。非常に料金が安く設
定されている。先ほど世界選手権でもメダルを取るような陸上選手
が練習していたが、1日使っても1人330円ということで、非常に安
いため、施設運営には苦労しているところである。

質 疑 スタジアムの座席の整備と照明、大型スクリーンの増設は、ラグ
ビー協会からの要請で基準を満たすために行ったのか。あるいは、
老朽化により行ったのか。

応 答 改修は組織委員会から必要と言われて行っている。照明はこれ
でも足りないので更に仮設を造る。

質 疑 世界大会を受け入れるにあたって、予算はどのくらいの規模で、
そのうち県費はどの程度か。当然世界大会が開催されれば観光消費
だったりインバウンドだったり、人口の流入などがあると思うが、
その辺の目標額や目標人数があれば現状と目標について分かれば教
えていただきたい。

応 答 ラグビーワールドカップの誘致で47億円、女子ハンドボール世界
選手権の誘致で36億円。財源については、ハード面は国交省の補助
金等が半分入っている。また、ソフト面は一般財源で行っており、
県と市が半分ずつ支出している。その他に協賛金なども入っている。

2点目の経済効果の話だが、20年前にハンドボール男子の世界選
手権を開催した時には、28万人の来場で70億円の経済効果があった。
今回も投資に見合う効果を期待したい。インバウンドなどについて
も、「レガシープログラムくまもとハロープログラム」のなかに国際
スポーツ大会を活用したレガシーの一つに、インバウンド観光の推
進を定めており、地元の観光団体などと協力して今後につながるよ
うな施策を行っている。

質 疑 企業やホテルの誘致は行っているか。

応 答 企業誘致は各県同様に誘致の補助金を使ってやっている。ホテルについては現在観光のセクションで、どちらかというところとたくさんのお客様に熊本のブランドというか、そういったもののアップにつながるような、高級ホテルを誘致するセクションがあり、そういったところが進めているところである。全国的にインバウンドの方々が増えていると思うが、熊本県内は2019年までにホテルが二つ三つできる予定と聞いている。

(*) 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。



(4) 調査結果

ラグビーワールドカップ2019の試合会場でもある熊本県民総合運動公園陸上競技場では、ラグビーワールドカップ開催に向けて設備改修に取り組んでいるほか、県民に対する競技普及、相手国との国際交流事業の実施など、機運醸成に取り組んでいる。また、大会を一過性のものにせず、レガシーを残すことにも積極的に取り組んでいる。

以上のように、熊本県民総合運動公園陸上競技場の施設整備やラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成に向けた取組などを調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

- 1 随行者 松本主任主事(議会局議事課)
小宮山副主幹(スポーツ局総務室)
佐伯警部(警察本部総務部総務課)

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) 延岡市民体育館
延岡市福祉教育委員会委員長
延岡市保健体育課長兼アスリートタウン推進室長兼東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進室長兼県体育館整備準備室長
 - (2) KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園
宮崎県スポーツ施設協会事務局常務理事兼事務局長、同次長、同企画総務部部长、同公園部部长
 - (3) 宮崎県
宮崎県議会事務局局長、同スポーツランド推進担当主幹、同政策調査課長、同総合政策課課長補佐
 - (4) シーガイアスクエア1 (フェニックスリゾート(株))
フェニックスリゾート株式会社常務取締役、同営業本部担当
 - (5) 熊本県民総合運動公園陸上競技場
熊本国際スポーツ大会推進事務局競技・会場部長、同会場整備課課長、同企画調整課長、熊本県議会事務局課長補佐